

Market News - 2015.November (No.10)

拝啓 深秋の候、貴社ますますご発展のこととお慶び申し上げます。平素は弊社製品に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて表記の件、Market News 11 月号 (No.10) を発行致しましたので、ご一読頂けますと幸いです。引き続き弊社並び弊社取り扱い製品をよろしくお願ひ申し上げます。

敬具

(1) 米国産秋作原料じゃがいも収量予測 (単位: 万トン) *2015 年数値は NAPMN 紙予測

NAPMN 誌が 10/7 号に掲載した 2015 年米国産秋作原料じゃがいも収量予測によると、10 月時点での収量予測は前年比 +0.1% となった(2014 年秋作収量は USDA が 9/17 に発表した "Potatoes 2014 Summary" の数値に変更)。Pacific NW 地域(大西洋岸北西部地域)のアイダホ州・ワシントン州では、6 月下旬～7 月上旬に発生した熱波の被害が大きく、原料の単収や収量の低下に加えて、品質面への影響が懸念される(同地区のオレゴン州は影響無し)。一方、ロッキー山脈より東側に位置する Midwest(中西部地域)から North East(北東部地域)では、一般的に前年を上回る収量が見込まれる。秋作収量値は前年とほぼ同様であるが、地域や加工分野によって原料需給を取り巻く環境は大きく異なる。本年の収量不足見通しにより、アイダホ州産の生食用ラセット原料価格は直近で急騰している。冷凍加工品分野では、Pacific NW 地域での原料供給が前年を下回る見通しだが、フレンチフライメーカーは製造の一部を中西部や東部地区の工場に移管することも検討しており、オープン市場での原料取得は活発化していない。直近の好調な輸出が継続すれば、需給が一気に逼迫する可能性も考えられる。

地域名	州名	2013 年	2014 年	2015 年収量予測			前年比
				8 月予測	9 月予測	10 月予測	
Pacific NW	アイダホ州	594.8	602.7	625.5	592.9	580.2	-3.7%
	ワシントン州	435.5	460.3	455.0	451.3	443.6	-3.6%
	オレゴン州	97.9	102.3	102.5	103.4	105.2	2.8%
Mountain	コロラド州	92.0	105.2	104.3	101.6	100.7	-4.3%
Midwest	ノースダコタ州	102.6	108.3	117.0	106.6	108.9	0.5%
	ミネソタ州	78.6	74.4	91.6	90.3	91.6	23.2%
	ウィスコンシン州	118.1	119.0	131.1	134.3	141.5	18.9%
	ネブラスカ州	38.2	36.0	26.8	25.9	26.8	-25.7%
	ミシガン州	71.9	71.4	77.6	77.6	79.4	11.3%
North East	メイン州	71.0	66.5	64.9	67.1	71.7	7.9%
	ニューヨーク州	22.5	19.7	21.8	20.4	21.3	8.2%
Others	その他	69.9	65.4	61.7	61.2	62.1	-5.0%
米国合計		1,793.0	1,831.2	1,879.7	1,832.5	1,833.0	0.1%

資料 : North American Potato Market News

(2) 北米産原料じゃがいも年間収量予測 (単位: 万トン) *2015 年数値は NAPMN 紙予測

NAPMN 誌は 10/21 号に 2015 年の北米産原料じゃがいもの年間収量予測を掲載した。Pacific NW 地域で 6 月下旬～7 月上旬に発生した熱波被害により、米国産秋作の収量予測が 8 月時点から下方修正され、米国産年間合計収量は前年比△0.2%となる見通し。カナダ産合計収量は 8 月予測から上方修正され、前年比 +0.8%の見通し。アルバータ州・マニトバ州等のプレーリー地区は前年を上回る収量が見込まれるが、東部沿海州地区、ケベック州、オンタリオ州の収量は前年を下回り、収量の増減は地域毎に大きく偏っている。

地域名	2012年	2013年	2014年	2015年予測			前年比
				8月予測	9月予測	10月予測	
【米国産春作】	111.4	100.4	102.6	91.0	91.0	91.0	-11.2%
【米国産夏作】	81.7	78.2	71.9	76.7	76.7	76.7	6.6%
【米国産秋作】	1,916.1	1,793.0	1,831.2	1,879.7	1,832.5	1,833.0	0.1%
【米国産年間合計】	2,109.1	1,971.6	2,005.7	2,047.5	2,000.3	2,000.7	-0.2%
【カナダ産合計】	457.0	466.0	462.6	460.9	464.0	466.1	0.8%
【北米産年間合計】	2,566.0	2,437.6	2,468.5	2,508.3	2,464.3	2,466.7	-0.1%

資料：USDA and Statistics Canada

(3) 米国産ポテト製品輸出量推移（単位：万トン・数量は原料換算比）

2015年3月に米国西岸部の港湾労使交渉が収束した後、米国からのポテト製品輸出量は5～6月に出荷再開後の反動を受けて大きく落ち込んだが、7、8月に掛けて輸出量は回復しており、冷凍加工品の輸出も4ヶ月振りに前年を上回った。

冷凍加工品：8月の輸出量は大きく伸長し、中国、フィリピン、台湾、オーストラリア、マレーシア、香港への輸出が大幅に増加したが、最大輸出先である日本向け輸出量は依然として低迷を続けている。

生食用：最大輸出先であるカナダ向け輸出量が落ち込んだが、メキシコ、韓国、台湾向け輸出は前年を大きく上回った。

ディハイ加工品：3月以降の輸出量は堅調に推移しており、日本向け輸出量が好調であった。ヨーロッパの2015年産収量が大幅に減産することから、ヨーロッパ各国が米国産ディハイ製品に興味を示している。

チップス加工品：最大輸出先であるカナダ向け輸出量や、フィリピンを中心としたアジア諸国向け輸出量が落ち込んでいる。

分野	年度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
冷凍加工品	2014年	7.81	7.58	7.99	8.31	9.85	9.28	6.67	7.40
	2015年	7.03	8.09	8.56	7.95	6.48	6.43	6.63	8.51
	前年比	90.1%	106.7%	107.1%	95.7%	65.8%	69.3%	99.5%	115.1%
生食用	2014年	2.74	2.73	3.19	2.64	3.44	4.03	4.76	4.16
	2015年	2.86	2.57	2.60	2.62	3.64	4.99	4.84	3.76
	前年比	104.4%	93.8%	81.4%	99.2%	105.7%	123.8%	101.7%	90.3%
ディハイ加工品 (フレーク)	2014年	1.05	1.11	1.21	1.18	1.26	1.49	1.32	1.10
	2015年	0.94	1.08	1.76	1.55	1.42	1.75	1.46	1.42
	前年比	90.0%	97.5%	144.7%	131.9%	113.2%	118.0%	110.2%	128.3%
チップス向け (グラニュール等)	2014年	0.34	0.33	0.41	0.42	0.36	0.40	0.46	0.39
	2015年	0.39	0.39	0.43	0.41	0.44	0.39	0.43	0.38
	前年比	115.0%	119.3%	106.2%	96.6%	120.0%	98.4%	94.5%	97.2%
米国ポテト製品 輸出量合計	2014年	25.97	25.85	28.09	28.00	32.13	33.10	27.87	27.14
	2015年	24.12	26.79	31.98	29.46	26.86	29.94	28.59	30.80
	前年比	92.9%	103.6%	113.9%	105.2%	83.6%	90.5%	102.6%	113.5%

資料：US International Trade Commission database

(4) 2015年9月 日本の冷凍ポテト製品輸入量 (単位: トン)

米国からの製品輸入量は9月も前年割れとなった(5か月連続の前年割れ)。本年6月を底に、米国からの製品輸入量は徐々に回復を見せているが、昨年8~12月までの実績は港湾荷役労使交渉の影響で激減しており、実際に回復に至っているとは判断し難い。ベルギー・オランダからの製品輸入量は9月も大きく伸長しているが、本年の大幅な減産がほぼ確実な見通しとなっており、物量の制約や品質面での問題が懸念されている。

輸入国	14年総輸入量	15年9月輸入量	前年同月比	15年累計輸入量	前年累計比
アメリカ	253,763	18,045	94.3%	176,540	85.1%
カナダ	27,671	1,217	51.0%	22,627	110.4%
ベルギー	16,865	1,930	142.1%	25,154	218.5%
オランダ	8,079	910	165.8%	14,001	280.9%
ニュージーランド	3,367	128	42.4%	2,583	103.2%
ドイツ	2,343	176	100.0%	1,761	98.2%
フランス	1,636	144	648.3%	1,203	101.0%
エジプト	1,719	242	550.0%	1,694	111.5%
中国	10,836	950	107.7%	8,429	105.2%
その他	756	75	123.4%	580	108.4%
輸入量合計	327,036	23,816	95.6%	254,573	97.9%

出典：財務省貿易統計 (税番 HS2004.10 及び 0710.10)

(5) TPP交渉・ばれいしょ製品の関税変更について (生産局政策統括官公表・TPP市場アクセス交渉農産物の品目別の交渉結果概要より抜粋)

農林水産省が公表したTPP農林水産物市場アクセス交渉結果において、今後のばれいしょ製品への関税は以下の通り変更される。

統計品目番号	概要・用途・製品の例	合意内容
200410100	調整したばれいしょ (単に加熱したもの) (冷凍) ※コンベンショナルフレンチフライ	4年目で関税撤廃 (8.5%→0%)
200410210	調整したマッシュポテト (冷凍)	6年目で関税撤廃 (13.6%→0%)
200410220	調整したばれいしょ (その他のもの) (冷凍) ※味付きフレンチフライ・ハッシュポテト	6年目で関税撤廃 (9%→0%)
071010000	冷凍ばれいしょ (調理していないもの及び蒸気又は水煮による調理をしたもの) ※ノンフライ	6年目で関税撤廃 (8.5%→0%)
200520100	調製マッシュポテト・ポテトフレーク (冷凍以外)	11年目で関税撤廃 (13.6%→0%)
200520210	調製したばれいしょ (その他のもの) (気密容器入り・1個の重量10kg以下) (冷凍以外)	6年目で関税撤廃 (12%→0%)
200520220	調製したばれいしょ (その他のもの) (気密容器入り・1個の重量10kg以下以外) (冷凍以外)	8年目で関税撤廃 (9%→0%)
110510000	ばれいしょの粉及びミール	11年目で関税撤廃 (20%→0%)
110520000	ばれいしょのフレーク、粒及びペレット ※乾燥ポテトフレークに相当	6年目で関税撤廃 (20%→0%)
070110000	種ばれいしょ (生鮮・冷蔵)	即時撤廃 (3%→0%)
070190000	ばれいしょ (種ばれいしょ以外) (生鮮・冷蔵)	即時撤廃 (4.3%→0%)

以上